

氏名	林 裕栄	部署	看護学科	職名	教授
研究分野	老年看護学、在宅ケア学、地域看護学、家族看護学				
学位	博士（看護学）				
学歴	千葉大学看護学部看護学科卒業（看護学士）、埼玉大学 経済学部経済学研究科経済学専攻（修士課程）修了（修士（経済学））、日本赤十字看護大学 大学院看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）修了（博士（看護学））				
経歴	1984年～埼玉県保健所勤務(5年間)、1989年～埼玉県立衛生短期大学助手・講師、埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科講師・准教授を経て、2014年～同大学看護学科教授				
所属学会（役職）	日本看護研究学会（査読委員）、日本看護学教育学会（評議員・査読委員）、日本看護科学学会、日本在宅ケア学会（代議員）、日本看護学会、日本地域看護学会、日本公衆衛生学会、日本老年看護学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会（理事：総務委員長）等				

【2022年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	クエスチョン・バンク介護福祉士国家試験問題解説2023	共著	あり	メディック・メディア、530頁	青木宏心・林 裕栄他	2022年4月
2	IPWを学ぶ	共著	あり	中央法規出版（株）、288頁	埼玉県立大学編	2022年4月
3	イラストでみる介護福祉士用語辞典（第7版）	共著	あり	福祉教育カレッジ、544頁	伊藤健次・林 裕栄他	2023年2月
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	シート型体振動計を用いた一人暮らし高齢者の睡眠の見守りと訪問支援の検討	共著	あり		埼玉作業療法・第21号・2022年6月、P2-8	久保田富夫、林 裕栄、武田美津代、新村洋未、畔上光代、水間夏子、滑川道人、三塩 操、
2	地域包括支援センターの看護職による独居の認知症高齢者への支援	共著	あり		日本地域看護学会誌、25(2)、2022、p22-31	林純子・林 裕栄・善生まり子、張平平
3	女性における中高年向け運動教室の参加者と非参加者の医療費の比較	共著	あり		日本公衆衛生雑誌、70(2)、pp124-134	寺内祐美・林 裕栄・関美雪・延原弘章・柴田亜希
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	Wellness Recovery Action Plan (WRAP 元気回復行動プラン) のファシリテーターを取得した精神科看護師のケアに対する意識変化	共同		日本精神保健看護学会第32回学術集会・総会プログラム・抄録集（江東区、オンライン）	○江原史江・秋山美紀・森田牧子・横山恵子・林裕栄	2022年5月
2	A県訪問看護キャリアラダー作成プロセスによるキャリア支援の一考察	共同		第27回日本在宅ケア学会学術集会、千代田区（オンライン）	○林 裕栄・武田美津代・水間夏子・阿部真純・三塩 操・渡邊 恵・藤田 茂治・中村 由美子・飯島 若子	2022年7月
3	一般病院における男性看護師のキャリア発達-男性看護管理者へのインタビュー調査から-	共同		第26回日本看護管理学会学術集会、p347、福岡市	○栗原直弥・林裕栄・善生まり子・江口のぞみ	2022年8月
4	一般病院の看護チームにおける連携における課題-看護師、准看護師、看護補助者の高齢者の尊厳に係る認識の違いを通して-	共同		第26回日本看護管理学会学術集会、p341、福岡市	○善生まり子・佐藤美香子・真々田美穂・松元智恵子・林 裕栄	2022年8月
5	新卒者等訪問看護師育成のプログラム参加者の実態	共同		日本地域看護学会第25回学術集会、P192、富山市	○林裕栄・武田美津代・水間夏子・阿部真純・三塩操・渡邊恵・中村由美子	2022年8月

6	訪問看護師の研修ニーズ	共同	第24回埼玉県健康福祉研究発表会、浦和市	○林裕栄・武田美津代・水間夏子	2023年2月
7	Field survey of the careers of visiting nurses, Report No. 1: Visiting nurses' background	共同	26th East Asian Forum of Nursing Scholars (26th EAFONS) 文京区 (オンライン)	○Mitsuyo Takeda, Hiroe Hayashi, Natsuko Mizuma	2023年3月
8	Field survey of the careers of visiting nurses, Report No. 2: Analysis of training needs	共同	26th East Asian Forum of Nursing Scholars (26th EAFONS) 文京区 (オンライン)	○Hiroe Hayashi, Natsuko Mizuma, Mitsuyo Takeda	2023年3月
9	Field survey of the careers of visiting nurses, Report No. 3: Visiting nurses' ideas on career development	共同	26th East Asian Forum of Nursing Scholars (26th EAFONS) 文京区 (オンライン)	○Hiroe Hayashi, Mitsuyo Takeda, Natsuko Mizuma	2023年3月
(4) その他					
	名称	単・共	発表場所等	発表者 (発表者は○印)	発表等年月
1	該当なし				
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称		研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究C)		訪問看護師育成のための教育ステーションの機能と課題に関する研究	研究代表者	2020.4~2024.3
3. 教育業績					
(1) 講義					
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)	
1	家族看護学	○	8コマ	各回ごとにPWを取り入れたたり、動画の視聴をするなど講義にリアリティを増すように工夫した。	
2	老年看護学Ⅰ		2コマ	老年看護分野の制度政策など新しい情報を取り入れるようにした。	
3	認知症看護	○	6コマ	最新情報を取り入れることや模擬事例を提示し、PWを組み込み、認知症のケアに関するイメージづくりを図り、卒後の実践現場での活用ができるようにした。	
4	老年看護学Ⅳ (地域ケアシステム)	○	8コマ	老年看護学実習Ⅱの体験のリフレクションや地域包括ケアシステムにおける看護職の役割を教授した。地域で活躍している看護師2名をゲストスピーカーとして招き、臨床現場のイメージづくりをすすめるとともに、将来の職業選択について考えることができるように務めた。	
5	看護理論		1コマ	臨床で使われる看護理論 (大理論、中範囲理論) のうち、家族理論、家族システム理論について教授した。	
(2) 演習					
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)	
1	老年看護学Ⅱ		3コマ	認知症サポーター養成講座「認知機能の低下した高齢者への看護と家族への支援」を実施した。また、認知症者への理解を深めるための演習として、認知症の人への生活援助技術動画を使用しPWを中心に実施した。	
2	看護学特別研究Ⅰ		通年	研究テーマを決定するまでの論文クリテック等を含め、研究方法の決定や研究計画書作成までの指導を実施した。	
3	看護学特別研究Ⅰ		通年	修士論文作成に向けて指導を実施した。	
(3) 実習					
	実習の名称	科目責任者	学外実習: 期間 学内実習: コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)	
1	老年看護学実習Ⅰ		2022年4月~6月	科目担当者として、実習施設である2か所の老人福祉センターに出向き、学生が利用者とのコミュニケーションの機会などを通して高齢者の心身・社会的側面の理解が深まるよう実習施設関係者との連携を密にして実施した。	

2	老年看護学実習Ⅱ	2022年10月～12月	老人保健施設および代替の訪問看護ステーションでの実習指導の実施。特別養護老人ホームの各種専門職の支援について遠隔実習を行った。加えて、学内実習では、高齢者ケア（清潔、認知症ケア）や老健看護師の現場での看護実践の講義、事例検討を実施した。コロナの影響で途中実習施設の変更等があったが学生の混乱を避けるために細やかに支援した。	
3	総合実習	2022年4月～7月	訪問看護ステーションの実習を行う2名の学生に対して看護過程の展開を指導した。	
(4)論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2022.4～2023.1	主指導 3名	副指導 0名
2	修士論文	2021.4～現在	主指導（指導教員） 3名	副指導（指導補助教員） 1名
3	博士論文	2021.4～現座	主指導（指導教員） 名	副指導（指導補助教員） 1名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	博士前期課程修士論文審査（主査）	2022.9～2023.3	該当修士論文の審査および助言を行い、論文の助言を行いブラッシュアップに努めた。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	埼玉未来大学 ライフデザイン科 講義	いきいき埼玉	介護を考える～老親、配偶者、そして自分～（春日部・川越・川口・熊谷・伊奈学園）	2022.9月～2023.3月
2	IPW総合過程トピックス講座	埼玉県立大学	「ケアラー支援における地域連携」をテーマに講義を1コマ担当した	2022年8月
3	産学連携と研究シーズ（WEB及び冊子）	埼玉県立大学	「地域で活躍する看護職の研究とケアラー支援の研修」として自身の研究内容を掲載した	2022年4月
4	新卒者等訪問看護師育成研修 講師	埼玉県訪問看護ステーション協会	キャリアをデザインする、事例検討会（月1回）	2022年4月～2023年3月
5	看護教員養成講習会 講師	埼玉県看護協会	専門領域別看護論演習（4時間の講義） 老年看護領域の成り立ちと枠組み、構造を教授した。	2022年7月
6	埼玉県精神看護・精神地域ケア事例検討会	埼玉県立大学オープンカレッジ	精神科事例検討会を定期的に開催し、県内外の支援者の支援スキルの向上を図った。	2022年5月～2023年2月
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	埼玉県福祉部地域包括ケア	埼玉県ケアラー支援に関する有識者会議 委員		2020.6～現在
2	埼玉県保健医療部医療人材課	埼玉県看護職員確保委員会 委員		2020.10～現在
3	埼玉県保健医療部	埼玉県訪問看護推進検討委員会委員		2018.4～現在
4	越谷市役所	開発審査委員		2019.4～現在
5	日本看護学教育学会	評議員・査読委員		2020.6～2024.6
6	日本看護研究学会	査読委員		2020.7～現在
7	日本在宅ケア学会	代議員		2022.6～2026.5
8	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会	理事（総務委員長）		2017.4～2023.3
9	もくせい家族会	評議員		2017.4～現在
10	埼玉県訪問看護ステーション協会	顧問		2016.4～現在
11	埼玉県訪問看護ステーション協会	新卒者等訪問看護師育成プログラム作成委員会		2015.4～現在
12	認知症者と家族の会	相談世話人		2003.4～現在
13	埼玉県看護協会	看護師職能委員Ⅱ		2019.6～現在
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			

(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	学生支援委員会、障害学生支援検討会、等		2021.4~2023.3
2	全学的委員会及びセンター業務等	保健委員会		2021.4~2023.3
6.受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			